

第 144 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 1 月 20 日（木）13：30～14：30

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。

<議題>

- ◇ 議題（1）について検討した結果、沖縄県警戒レベルをレベル 3A に引き上げ、感染急拡大の抑制と社会機能の維持に向けた取組を実施することを決定した。
- ◇ また、今週末の感染状況のデータを確認し、感染縮小の傾向が見られない場合は、1/24（月）に対策本部会議を開催し、まん延防止等重点措置延長の要請について検討することを確認した。

<その他>

- ◇ 文化観光スポーツ部から、沖縄便の搭乗者（希望者）を対象とする無料検査について報告があった。
- ◇ 総括情報部から、新型コロナ対策のための全庁動員について、各部局へ協力依頼を行った。

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、金城 知事公室長、池田 総務部長、儀間 企画調整統括監、松田 環境部長、金城 県警警備第二課長、大城 保健医療部長、名渡山 子ども生活福祉部長、下地 農政企画統括監、金城 土木企画統括監、嘉数 商工労働部長、宮城 文化観光スポーツ部長、大城 会計管理者、佐次田 教育管理統括監、玉城 病院事業統括監、長濱 企業企画統括監、諸見里 医療企画統括監、糸数 保健衛生統括監、高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

2 報告事項

（1）沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

➤ 総括情報部から最新の新規陽性者及び療養者の状況について報告【資料 1】

- ✓ 1/19 の新規発生 1,433 名、合計 70,502 名、入院中 384 名、うち重症 6 名、うち中等症 213 名、入院・療養等調整中 2,028 名、宿泊施設療養中 323 名、自宅療養 8,774 名、入院勧告解除確認中 0 名で療養中患者計 11,509 名となっている。

- ✓ これまでは 20 代の陽性者が多かったが、10 代、10 歳未満の陽性者が急増しているほか、高齢者にも感染が広がってきている。

(2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から、米軍基地内における発生状況について報告。【資料 2】
 - ✓ 1/18 時点、米軍基地内で 121 名。
 - ✓ 12/15 以降、米軍基地において 4,960 名の陽性者が確認されている。

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料 3、3-1~3-10】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
 - ✓ 判断指標について、新規陽性者数（直近 1 週間合計）はレベル 4、病床使用率及び重症者用病床使用率はレベル 3 となっている。
 - ✓ 直近 1 週間の新規陽性者数の前週比は 1.1 となっている。
 - ✓ 一般病床の使用率は 94.4%となっている。
 - ✓ 直近 1 週間の人口 10 万人あたりの新規陽性者数は 664.86 で、全国ワースト 1 位の状況。
 - ✓ 各保健所管内で見ると、全ての保健所管内で陽性者が増えており、特に中部、南部、那覇で急増している。
 - ✓ 新規感染者に占める 60 歳以上の割合が増加傾向にある。
 - ✓ 1/15 の週の重症者・中等症者も増えてきており、高齢者に感染が広がった際の影響について注視している。
 - ✓ 医療従事者の就業制限も増えており、第 5 波のピーク時の 3 倍超の休業者が発生している。
 - ✓ 1/10 の週の飲食店が推定感染源となっている感染者数は 324 人となっており、昨年未以降、大幅に増加している。

- ✓ 1/10 の週の移入例の陽性者は 59 人となっている。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の報告によると、実効再生産数については、沖縄本島 1.29、宮古 0.86、八重山 0.93 となっている。
- ✓ 年齢階級別割合について、1月上旬まで半数近くを占めていた 20 代の占める割合が減少し、小児、高齢者を含めた全世代に拡散している。
- ✓ 地域別で見ると、北部、離島では減少に転じた可能性があるが、中南部では高いレベルで流行が続いている。
- ✓ 重症者について調査したところ、40 歳未満では酸素投与を要した症例は 1 例のみであり、80 歳未満の 96.9%が無症状または軽症であった。
- ✓ 一方、80 歳以上（28 名）のうち、21.4%が酸素投与を必要とする状態であった。
- ✓ 今後の見通しとして、1 週間あたりの新規陽性者数は 10,000~15,000 人、入院患者数は 650 人~700 人と予想される。

（４）宿泊施設の運用状況について【資料 4】

- 総括情報部から、宿泊施設の運用状況について報告。
 - ✓ 那覇市は 3 カ所が稼働しており、合計 186 人が療養中である。
 - ✓ 中部では 1 カ所が稼働しており、94 人が療養中である。
 - ✓ 他の地域については、北部で 24 人、宮古で 21 人、八重山で 17 人が療養中となっている。

（５）沖縄県人口変動状況について【資料 5】

- 総括情報部から、KDDI Location Analyzer による分析結果を報告。
 - ✓ 繁華街エリア、商業エリア、空港エリアの全てで人流が減少しており、まん延防止等重点措置の効果が出ているものと思われる。

(6) クラスターの発生状況について【資料 6】

- 総括情報部からクラスターの発生状況について報告。
 - ✓ 新規に事業所、病院、法事の会食に伴うクラスター事例が確認されている。

(7) 宮古・八重山地域の感染状況について【資料 7】

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 1/13 に 109 名の陽性者が確認されたのを境に減少傾向にある。
 - ✓ 年代別では 20 代～40 代の割合が減少し、10 代以下、高齢者の割合が増えてきている。
 - ✓ 入院者、自宅療養者は減少傾向、宿泊療養施設の利用者は横ばいの状況。
 - ✓ 陽性者の大半が軽症であり、入院者している者のうち中等症者は 2 名いるが、重症者は 0 人となっている。
 - ✓ 43 の福祉施設、医療機関で感染者が確認されており、第 5 波のときより 3 倍程度多い状況。
 - ✓ 保育所・学校の感染事例については、関係者とチームを作って対応している。

- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 八重山では、この 1 週間で 150 人程度の陽性者が確認されており、感染が拡大している状況である。
 - ✓ 保育施設で 50 名近くの感染者が確認されており、職員、園児等の健康観察、検査等の対応を行っている。
 - ✓ また、高齢者施設でも職員の感染事例があったが、検査を行ったところ、他の職員、入所者に陽性者は確認されなかった。
 - ✓ 当該施設では、入所者の 3 回目ワクチン接種が完了していたことが影響したも

のと考えている。

- ✓ 八重山地域の周辺離島でも陽性者が確認されているが、地域の船舶会社と連携しながら、八重山病院への搬送を実施している。

(8) PCR 検査事業の状況について【資料 8】

➤ 総括情報部から、検査事業実績について報告。

- ✓ エssenシャルワーカー定期 PCR 検査の実績について、1/8～1/14 は、介護関係者 12,520 人が受検した結果、83 人が陽性であった（陽性率 0.66%）。また、障害者施設関係者 916 人が受検した結果、6 人が陽性であった（陽性率 0.66%）。保育施設関係者については、1,543 人が受検した結果、17 人が陽性であった（陽性率 1.10%）。
- ✓ 安価な PCR 検査補助の実績について、1/7～1/13 は 10,696 人が受検した結果、陽性者 548 人、陽性率 5.12%であった。
- ✓ ワクチン検査パッケージの実績について、1/8～1/14 は 6,347 人が受検した結果、陽性者 275 人、陽性率 4.33%であった。
- ✓ 一般無料検査の実績について、1/8～1/14 は 17,530 人が受検した結果、陽性者 761 人、陽性率 4.34%であった。
- ✓ 学校 PCR 検査の実績については 4,589 人（153 校）が受検した結果、陽性者 95 人、陽性率 2.07%であった。

(9) ワクチン対策チーム進捗状況報告について【資料 9】

➤ 総括情報部から、住民向けワクチン接種進捗状況等について報告。

- ✓ 1/17 時点で 1 回目のワクチン接種が完了した人は 1,041,753 人となっており、接種率（県全体）は 70.1%となっている。
- ✓ 1/17 時点で 2 回目のワクチン接種が完了した人は、1,027,623 人となっており、

接種率（県全体）は、69.2%となっている。

- ✓ 1/17 時点で3回目のワクチン接種が完了した人は、25,321 人となっており、接種率（県全体）は、1.7%となっている。
- ✓ 高齢者の3回目接種の前倒しについて、2月は7ヶ月、3月は6ヶ月の前倒しとなる。
- ✓ 県のモデルナセンターで市町村救急隊、医療従事者、高齢者関係施設の関係者に対する接種を実施する。
- ✓ 2/5 から本島3カ所（北部・中部・南部）に県広域ワクチン接種センターで接種開始の予定。

（10）空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの運用状況等について【資料10】

- 文化観光スポーツ部から、空港PCR検査プロジェクト・TACO・RICCAの状況について報告。
- ✓ 空港PCR検査プロジェクトについて、1/10の週の受検者は4,806名で、その内76名が陽性であった。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、1/10の週の受検者は856名で、その内9名が陽性であった。
- ✓ TACOについて、1/10の週のサーモグラフィー通過者は80,154人で、その内発熱者は0人であった。
- ✓ RICCAについて、1/14時点の登録者数は133,149人となっている。

（11）各部局の取組状況について【資料11】

- 総括情報部から、各部局の取組状況について報告。
- ✓ 環境部から、まん延防止等重点措置に伴う沖縄県対処方針の一部修正にかかる周知依頼を行ったほか、地域環境センター及び平和の森創造公園では感染拡大

予防ガイドラインに基づき感染防止対策を徹底したうえで、利用者を受けいれるとの報告があった。

- ✓ 文化観光スポーツ部から、那覇空港及び本土から直行便の就航する離島空港における5空港合計のPCR検査数を一日当たり600件から1,000件に拡充するほか、那覇空港における検査対応時間の延長（20時→23時）に向けた運営体制の整備に取り組むとの報告があった。
- ✓ 飲食店巡回活動について、1/9（日）～1/18（水）までの夜間巡回パトロールを行ったところ、実施日までの協力率は約97.0%であり、昨年の緊急事態措置時よりも多くの店舗に協力いただいている。
- ✓ 1/19以降も夜間巡回を毎日実施し、要請に応じない店舗については、順次事前通知を交付。その後も要請に応じない場合は、時短命令の手続を進める予定である。

（12）感染症対策専門家会議の概要について

➤ 総括情報部から、1/15に開催された感染症対策専門家会議の概要について報告。

◇ 現在の感染状況について

- ✓ 現在の感染状況、国立感染症研究所の分析情報について次のとおり報告した。
- ✓ 持続的なオミクロン株の発生が認められるが軽症者が多い。
- ✓ デルタ株に比べて潜伏期間が短い。
- ✓ 第5波のときと同様に、若者から家庭や施設に感染が広がっている。
- ✓ 施設関連の陽性者が急増しており、このまま高齢者の感染が広がれば、施設内療養者等への対応が困難になる恐れがある。

◇ 医療提供体制の確保について

- ✓ 医療提供体制の確保等について次のような意見が出された。

- ✓ 濃厚接触者の待機期間について、最終接触日から 10 日間への短縮されたこと、更に社会機能を維持するために必要な事業に従事する者（医療従事者等）に限り、検査で陰性確認により待機を 6 日間又は 7 日間に短縮できることとなったが、今後、介護施設が厳しい状況となるおそれがあることから、介護従事者についても医療従事者と同様の対応ができるよう国へ働きかけてほしい。
- ✓ 濃厚接触者の待機期間を短縮することに異議はないが、陰性確認のための検査が増え、医療現場が逼迫することが心配である。
- ◇ 緊急事態宣言について
 - ✓ 緊急事態宣言について次のような意見が出された。
 - ✓ 病院現場では、外来がピークを越えつつあり、今すぐ緊急事態宣言が必要とは感じない。ただし、感染が若者から高齢者や小児に移ってきており、高齢者等の入院が増えてきた時が心配である。
 - ✓ まん延防止等重点措置と緊急事態宣言で対応に大差はないが、より一層の注意を促すため緊急事態宣言を出してほしい。
 - ✓ 現在、保健所の状況は厳しく、一部の機能を制限しているが緊急事態宣言をしても改善されるとは思えない。
 - ✓ オミクロン株はインフルエンザに近い部分がある等、かなりの事が分かってきたので、しばらくはまん延防止等重点措置の継続で良いのではないかと。
 - ✓ デルタ株の時も、まん延防止等重点措置と緊急事態宣言で対応に大きな違いはなく、一番効果があったのはワクチンだったので、ワクチン接種を推進することが大事。
- 緊急事態宣言の必要性について、現時点では判断が困難なことから、検討を継続することが確認された。

(13) その他報告事項について

- 病院事業局から、県立病院の状況等について報告。
 - ✓ 1/19 時点の県立病院の入院患者数は 140 人であり、新型コロナ病床の稼働率は 57.9%となっている。
 - ✓ 北部病院からは、保育所における集団発生事例について、現地で PCR 検査を実施したとの報告があった。
 - ✓ 八重山病院からは、新型コロナ患者の増加に伴い、慢性期病院等への転院が難しくなっていること、一般病床の空きが少なくなっていることについて報告があった。
 - ✓ 看護師について、厚生労働省と全国知事会から 29 名の応援を受ける予定となっており、1/17 以降、各病院へ配置される予定となっている。

(報告(1)～(13)に関する発言等について)

- ✓ 濃厚接触者となった医療従事者の待機期間を短縮するとの指針が示されたことから、各県立病院はこの取扱に従い、適切に対応する必要があるとの意見があった。

3 議題

(1) 沖縄県警戒レベルの引き上げ及び強化する取組について

- 総括情報部から、沖縄県警戒レベルの引き上げ及び強化する取組等について説明。
 - ◆ 現況について
 - ✓ 1/19 時点の県判断指標は、新規陽性者数（人口 10 万人あたり）が 664.86 でレベル 4、病床使用率（国基準）が 60.5%でレベル 3、重症者用病床使用率が 55.8%でレベル 3 の段階にある。

- ✓ 新型コロナに関連して休業している医療スタッフの人数について、1/4 時点では 45 人であったが、1/19 には 454 人と急増している。
 - ✓ 1/19 に時点の直近 1 週間の新規陽性者数は 1.1 となっており、感染拡大傾向が続いている。
 - ✓ 飲食関係の陽性者数は、12/27 の週で 32 人であったが、1/10 の週は 324 人と急増している。
 - ✓ 上記のとおり、現在、本県では新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いており、3つの県判断指標もレベル3または4となっていることから、沖縄県警戒レベルをレベル3Aに引き上げるとともに、対策を強化することについて検討が必要である。
- ◆ 感染急拡大の抑制と社会機能の維持に向けた取組について
- ✓ 感染拡大抑制と社会機能の維持に向けて次の取組を実施する。
 - ① 医療従事者・社会機能従事者の濃厚接触者観察期間の短縮の周知徹底
 - ② 国へ看護師派遣を要請し、重点医療機関、クラスター発生施設、宿泊療養施設、入院待機施設、自宅療養健康管理センターへ配置する。
 - ③ 軽症者用宿泊療養施設を那覇市内に新設する。
※1/19 から療養者受入開始
 - ④ 入院待機ステーション（南部地区）の再稼働、新たな施設の整備
南部地区の入院待機ステーションは1/12から受入開始。また、新たな施設（100床程度）を整備中。
 - ⑤ ワクチン接種の推進
1/7 から県モデルナセンターを設置し、医療従事者の3回目接種を開始したほか、2月以降は広域ワクチン接種センターを3カ所設置し、高齢者に対しても3回目接種を実施する。
 - ⑥ 接触者 PCR 検査センターの拡充及び「高齢者枠」の新設

陽性者に占める高齢者の割合が増加傾向にあることから、検査枠を 800 名/日から 1,100 名/日に拡大し、拡大分を「高齢者枠」として予約を受け付ける。

⑦ 那覇空港及び離島空港における検査体制の強化

○1/19 以降、PCR 検査を 300 件/日から 500 件/日へ、抗原検査を 700 件/日から 1,000 件/日へ拡大。

○2/1 以降、検査時間を 23 時まで延長

○宮古空港、下地島空港、新石垣空港での検査結果について、翌日中に通知を行う。

○宮古空港、新石垣空港では検査数を 100 件/日から 150 件/日に、下地島空港、久米島空港では 50 件/日から 100 件/日へ拡大。

⑧ 沖縄県抗原検査キット陽性者登録センター（仮称）の設置

◆ まん延防止等重点措置解除の考え方について

- ✓ まん延防止等重点措置の解除については、国の分科会が示した新たなレベル分類の考え方を参考に検討することとなる。
- ✓ 分科会が示した新たなレベル分類の考え方では、新型コロナ対策のために強化した対策の解除の目安が次のとおり示されている。

① 病床使用率：50%未満

② 重症病床使用率：50%未満

③ 入院率が改善傾向にあること

④ 重症者数が継続して減少傾向にあること

⑤ 中等症者数が継続して減少傾向にあること

⑥ 自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値が。大都市圏では 60人/10 万人程度に向かって確実に減少していること。その他の地域でも特に療養等調整中の数が減少傾向又は適正な規模に保たれていること

(議題(1)に関する発言等について)

- ✓ まん延防止等重点措置の延長について、どのような検討がなされているか質問があった。
 - 総括情報部から、今週末の感染状況のデータを元に1月末の感染状況を推計し、まん延防止等重点措置延長の必要性を検討することを説明。また、感染縮小の傾向が見られない場合は、まん延防止等重点措置の延長の要請について検討する必要があることから、1/24(月)に対策本部会議を開催することを提案。
 - ✓ まん延防止等重点措置の延長要請の検討に関連して、感染症専門家会議及び経済対策関係団体会議の意見を確認するのか質問があった。
 - 総括情報部から、感染症専門家会議の開催または個別の意見聴取を行い、専門家の意見を確認することを説明。
 - 商工労働部から、経済対策関係団体会議を開催し、経済界の意見を確認することを説明。
 - ✓ 医療従事者の就業制限に伴い、新型コロナ用の病床がフルに活用できていない状況であることから、国から示された濃厚接触者健康観察期間の短縮に従い、医療従事者の早期復帰に取り組む必要があるとの意見があった。
 - ✓ 新型コロナ病床の更なる増床について質問があった。
 - 高山政策参与から、例年1,2月は高齢者等が体調を崩し、入院が増える時期であり、現在の非コロナ病床の使用率も94.4%と逼迫していることから、病床の配分については全体的な視点で判断する必要がある、との意見があった。
- 議題(1)について検討した結果、沖縄県警戒レベルをレベル3Aに引き上げ、感染急拡大の抑制と社会機能の維持に向けた取組を実施することを決定した。
 - また、今週末の感染状況のデータを確認し、感染縮小の傾向が見られない場合

は、1/24（月）に対策本部会議を開催し、まん延防止等重点措置延長の要請について検討することを確認した。

4 その他

（1）沖縄便の搭乗者（希望者）を対象とする無料検査について

- 文化観光スポーツ部から、沖縄便の搭乗者（希望者）を対象とする無料検査について報告。
- ✓ 沖縄県民と移動する方の安心の確保、早期の感染源探知、感染抑制を目的として、沖縄県と他地域間を移動する方について無料のPCR検査が開始された。
- ✓ 対象は1/20～2/28の期間、羽田、成田、中部、伊丹、関西、福岡空港から沖縄県内の空港に向かう便の搭乗客のうち検査を希望する者となっている。
- ✓ 事業主体は国（内閣官房コロナ室）であり、検査費用は無料となっている。
- ✓ 検査の方法は、空港内ブースでの検査、店舗での事前検査、配送される検査キットでの検査となっている。

（2）新型コロナ対策のための全庁動員について

- 総括情報部から、新型コロナ対策のための全庁動員について説明。
- ✓ 第6波の到来に伴い、新型コロナ関連業務が急増している状況である。
- ✓ 現在、健康観察業務の自動化等の取組により、業務の効率化を図っているところであるが、各部局からの応援職員の動員の継続も必要な状況である。
- ✓ 年度末の繁忙期に入っていくが、今後も新型コロナ対策のため、各部局から動員について協力をお願いしたい。

5 閉会